



わっ! まちの話題

8月18日(木)

西原高校マーチングバンド部 世界一!



オランダで開催された第19回世界音楽コンクールに出場し、チャンピオンシップのショー部門で、西原高校マーチングバンド部が世界一に輝きました。開催国オランダを含む中での優勝は初となり、真の世界一を掴み取りました。

部長の屋良和佳菜さんは「多くの方々の支えで世界一になることができました。感謝の気持ちでいっぱいです」と喜びと感謝を述べました。

崎原町長は「世界一おめでとう。西原町の誇り、そして沖縄県の宝です」と称賛しました。(写真提供：フォトスタジオゼウス)

7月17日(日) さわりん誕生日おめでとう! さわりんダンスコンテスト!

7月1日は西原町観光キャラクターさわりんの誕生日です。さわりんの誕生日を記念し西原町観光まちづくり協会の主催でさわりんダンスコンテストがさわふじマルシェで行われました。キッズ部門とティーンズ部門に出場した計13チームは、それぞれ個性豊かにアレンジしたさわりんダンスを披露し、訪れた観客の心を魅了しました。



8月2日(火) 祝! 西原東中卓球女子団体2連覇!



西原東中学校の女子卓球部が第49回県中学校総合体育大会において女子団体で優勝し、大会2連覇を果たしました。

キャプテンの仲宗根瑠花さんは「負けそうな場面もあったが、チーム一丸となって優勝できてよかった。九州大会でも頑張ります」と意気込みを語りました。

7月6日(水) 未来を担う青少年 まっすぐ育て



第42回西原町青少年健全育成町民一斉行動がさわふじ未来ホールで開催されました。

総決起大会では小中高生が家族との関わりから気づいたことを、自分の言葉で堂々と発表し、来場者は熱心に耳を傾けていました。

講演会では沖縄県警本部少年課の東風平朝秀さんと西原町教育委員会新垣和哉主幹により薬物の恐ろしさについての講話があり、子どもたち自身、また、子を見守る親自身も薬物について学ぶ良い機会になりました。

7月19日(火) 祝! 将棋県大会ダブル優勝! いざ全国大会へ

5月に行われた将棋の県大会で首里高校1年の松島琉緯さん(西原東中学校出身)と西原東中学校3年の比嘉純大さんがそれぞれ優勝を果たし、8月の全国大会へ出場を決めました。高校生・中学生の部ともに西原町の生徒が優勝するのは初めての快挙となります。

新島教育長は「町民・県民の誇り。全国でも優勝目指して頑張ってほしい」と激励しました。



8月2日(火) 関東学院大学と包括連携協定締結式



西原町と与那原町は、よりよいまちづくりを目指し、相互の発展と行政サービスの向上を図ることを目的に、関東学院大学と包括連携協力に関する協定を締結しました。

崎原町長は「関東学院大学と連携し、行政課題の解決に積極的に取り組んでいきたい」と述べました。

本協定の締結により、人材育成の振興や保育士不足の解消につながることを期待されます。

文化財

翁長の独特な伝統行事

字翁長には、西原町内だけでなく、沖縄県内でも他に類を見ない「ヨンシー」という行事があります。近年は、旧暦の八月七日と十五日に、儀式を簡略化した形で執り行われていますが、かつては、旧暦八月七日から十五日までの九日間行われていたようです。

行事の初日は、供物の準備やヨンシーと呼ばれる蛇の形をした約六メートルの綱をつくった後、シージモ(※1)での儀礼から始まります。そして、シージモから、鉦を打ち鳴らす男の子が先導役となり、「ヨンシー、ヨンシー、ウナガヌヨンシー」と唱えながら女の子たちがヨンシーを担いで、約五〇〇メートル先のティランキーガー(※2)まで歩きます。

そこに着くと、ヨンシーの頭と尾を繋げるような形で円陣をつくり、その場で七回まわった後、ヨンシーを下に降ろしてから片手を口にあて、「アワーワー」との声出しが行われます。そこから、またヨンシーを担ぎ「ヨンシー、ヨンシー、ウナガヌヨンシー」と唱えながらシージモへ戻り、そこでも前述と同様の儀礼を行います。この一連の流れを一日で七回(往復)行っていました。

これを十五日まで毎日続け、最終日のヨンシーを送る儀式(ヨンシーワーク)で、この行事は終了となります。

なお、十一日、十三日、十五日の夕方以降は「村芝居」(※3)も併せて行われて

いたことから、この九日間の行事が大掛かりであったことが容易に想像されます。ちなみに、ヨンシー行事は悪疫の流行や火事の予防のために行っているそうですが、行事の由来は、昔、一人の老人が大勢の子供たちに蛇形の綱を担がせて遊ばせたことが始まりだそうです。

翁長のヨンシーは、時代とともに内容や規模が少しずつ変化してきていますが、翁長で継承されてきた独特な伝統行事ですので、町民の皆様はもちろんのこと、町外の方にもぜひ見てほしいです。



翁長のヨンシー (2008年撮影)

※1 喜納又殿(拝所)が所在する一帯にあった丘陵地。現在は消滅。

※2 テラノコシノロガーとも呼ばれる井戸で、拝みを行う場所(拝井泉)となっている。

※3 「八月遊び」などとも呼ばれ、狂言や組踊、獅子舞などが演じられていた。

お問い合わせ文化課文化財係 ☎944-14998